コリントスの僭主　ペリアンドロス

渡辺　浩

A：先生こんにちは．夏も終わって，また忙しくおなりですか．今日のお話の人物はどんな……？

Ω：7賢人の時代が少し長くなるが，もう1人だけ，標題のペリアンドロスを取り上げることにしたい．時代はソロンと同年代と考えてよいだろう．

主人公の話に入るまえに，ギリシャの地図を拡げて見ればすぐ目につくように，東西南北各200km，関東地方に匹敵する面積を持ち，ギリシャ神話の舞台としても半分近いウエイトを占めるペロポネソス半島が，わずか幅6kmのコリントス地峡で本土につながっている．これがギリシャ最大の交通要衝にあたることは明らかだろう．この地峡を東から見ればサロニカ湾の最奥にあたり，西から見れば幅5～30km，長さ130kmと，むしろ水路と呼ぶべき細長いコリントス湾が伸びて本土と半島をへだて，その最奥にコリントス港がある．古代のコリントス市はその6km西南の高台にあった．

A：交通の要衝が最大の利点なのに，港から6kmも離れたところに都市があったのですか？

Ω：日本人は水と安全は無料だと思っている，と指摘されたことがあるが，ギリシャ人が古代から都市生活をした理由の第1は集団防衛の必要だったから，都市の立地もそれに即して選ばれた．海上の治安が確立されていないときには，海賊船団の急襲を考えると，港はポリスの位置として最適ではない．アテナイもアルゴスも，港から少しひっこんだ位置に建設されていた．

しかしコリントス地峡の通商，軍事上の価値は，陸上交通と海上交通とではかなり意味が違うことに注意しなければいけない．ヘラクレスの後裔たちのペロポネソスへの帰還の伝説で，“狭いところによって攻撃すれば勝利が得られよう”とのデルポイの神託をコリントス地峡と解釈して1度失敗しつぎにコリントス湾の幅の狭いところと解して成功したという話もこの点を指摘している．

ペロポネソス半島から南に向って突出している3つの大きな岬の中央がタイナロン岬だが，その東のマレア岬とその沖のキュテイラ島は，オデュッセウスをはじめとする幾多の漂流物語の出発点となった航海上の難所で，その意味でコリントス地峡6kmを横断する輸送は，エーゲ海貿易と中部地中海貿易を結合する可能性を秘めていた．それに引きかえ，幅6kmの地峡は，大兵力の陸上部隊の進撃を小兵力で阻止するには，少し広すぎる．

コリントス市は古くから，通説ではイオニア人の都市としてあったが，ドーリス人の侵入以後その支配下に入った．とくに前8世紀半ばからはバッキス王の子孫たち，いわゆるバッキアダイによる貴族政体が続いていた．土地はやせて農業には適していなかったが古くから製陶業が行なわれ，そのコリント様式の製品は内外に輸出されていた．これから述べることがバッキアダイ，キュプセロス，ペリアンドロスの中のどの時代にあたるのかはっきりしない点が多いのだが，ペロポネソス半島の内と外との陸上貿易を独占する地位によって豊かになったコリントスは，やがて海上貿易に目を向け，ギリシャ本土ではじめて海軍を建設する．

A：貿易に海軍が必要なのですか．

Ω：昔は貿易船と海賊船との間にはほとんど区別はなかった，とトゥキュデイデースが言っている．組織的な海上貿易に乗り出すには，まず海軍力で海賊を制圧することが前提だった．クレタのミノス王がエーゲ海域でこれを実行した後6～700年たって，コリントスが再びこれを遂行したということらしい．これでコリントスはますます富強になった．後年軍艦の標準型とされる3重櫓船を，本土ではじめて建設したのもコリントスだった．

こうしてコリントス人は広く地中海に進出をはじめる．シチリア東岸に彼らの建設した植民市シュラクサイ（シラクサ）はまもなくシチリア最大の都市となる．またギリシャ北西部のケルキュラ島にも植民市を建設したが，これはアドリア海の最狭部を横断してイタリア半島の踵の部分に渡る場合の拠点となるところで，オデュッセウスに“ここまでたどりつけば，もう故国に帰り着いたも同じ”と安心させ，事実彼を親切にもてなして，イタケー島まで送り届けたパイエークス人の国も，ここにあったと言われる．もっぱら人力漕行に頼る軍艦のばあい，毎夕寄港して乗員を上陸休養させる必要があり，し

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

かもアドリア海の横断が，平穏な日に全力漕行でちょうど1日行程だったので，この島の戦略的価値は絶大だった．この前か後か，コリントスとケルキュラとの間に行なわれた海戦はギリシャ最古のものと言われる．コリントスの後を追って海上進出を志す諸市は，争ってコリントス人の造船技術者，港湾土木技術者，航海士を招いた．

さて前7世紀半ば以後コリントスにキュプセロスという者があらわれてバッキアダイの支配をくつがえし，コリントスの僭主となった．彼は30年間その地位にあり多数の有力者を追放，殺害，財産没収のうき目に会わせた．リュディアで発明された貨幣がアイギナ人の手によってコリントスに伝えられ，それからギリシャ各地に拡がっていったのはこのころのこととされる．キュプセロスは迫害の対象となった人々以外には人気があった．

キュプセロスの子ペリアンドロスが，父の跡を受けてコリントスの僭主になったとき，コリントスはギリシャの最強国になりつつあった．ペリアンドロスはミレトスの独裁者トラシュブロスと親交を結んでいた．ペリアンドロスからの情報で，トラシュブロスが長年戦ってきたリュデイアとの間に，有利な条件で講和を結ぶのに成功したことは，前回述べた．

コリントスで活躍した当代無比の音楽家で，合唱舞踊歌デイテュランボスの創始者でもあったアリオンが，イタリアからコリントスに帰ろうとして船上で強盗に遭い，海に身を投げたとき，1頭の海豚が泳ぎ寄り，その背にのせてタイナロン岬まで運んだ，という有名な伝説も，はじめと終りはペリアンドロスに関連していた．

コリントスの地理的利点を最大限に発揮させるには，コリントス地峡の東西2つの海を結びつけることが必要だった．しかしここに運河を掘ることは，コリントスの技術力，経済力をはるかに越える事業になることを知ると，次善の策としてペリアンドロスは2つの海を結ぶ索道を建設した．これは緩やかな石畳の道に2本の溝をつけたもので，車輪のついた台座の上に船をのせて引綱で引き，もし順風であれば帆も併用した．こうして東部地中海と中部地中海の貿易はコリントスで1つに結ばれ，またペリアンドロスの艦隊はコリントス湾からサロニカ湾へと自由に姿をあらわすことができ，その威力は倍加した．この索道は手間もかかり，通行料も決して安くはなかったが，ここに運河を掘ることは，地中海全域を支配する帝政期のローマ皇帝ネロの実力を以てしてもおよばず，実際に運河が開通するのを見るには，1893年まで待たねばならなかった．

このころまでにコリントスは，ギリシャ西海岸のアンブラキア，アポロニア，アクティオン，レウカス島，エーゲ海北部のポテイダイアなどの植民市を建設していた．アッテイカの東に接するエウボイア島の由緒ある都市カルキスも，コリントスの植民地になっていたらしい．しかしメガラはコリントスの支配を離れ独立した．

ペリアンドロスはギリシャ7賢人の1人に数えられ，この7人はデルポイで1度，またペリアンドロスの饗宴に招かれてコリントスで，一堂に会したことがあると言われる．この7賢人についての共通点の1つは，スパルタの教育システムを高く評価している点だった．しかしペリアンドロスにはいくつかの暗い話が伝わっている．彼が父の跡をついだとき，彼は父よりも温和だったので，キュプセロスの迫害を受けていた人々は胸をなで下した．しかしペリアンドロスはトラシュブロスのところに使を送り，“僭主としての統治の心がまえについて教わりたい”と申し入れた．トラシュブロスはそれには一言も答えず，使者と連れ立って麦畑を歩きながら，他の穂より高く伸びている穂を見つけるたびにそれをちぎり捨てることをくり返し，そのまま使者を帰国させた．使者は困って見てきたままを報告し，あの方は少し頭がおかしいようです，とつけ加えた．しかしまもなくペリアンドロスはこの麦穂の政策を実行しはじめたので，コリントスの有力者たちはキュプセロスのとき以上の恐怖に陥った．このことから後世プラトンは7賢人のリストからペリアンドロスを除外し，代りにミュソンを加えた．ミュソンでなくエピメニデスを加える人もあった．その後はだれでも自分の好みで7人を選ぶのがふつうになり，その候補者の範囲は17人とも20数人とも言われた．

ギリシャの植民市はいったん完成すれば完全な独立国で，母市との関係は道義的なものだけだったが，ケルキュラに対してはコリントスは宗主権の維持をはかったらしく，そのためか両市の関係は微妙だった．老年になったペリアンドロスは，2人の息子の中，後継者として以前から期待をかけていた弟のほうを，複雑な事情の結果ケルキュラ人に殺されてしまった．コリントスとケルキュラとの不和は長く跡を引いて百数十年後にペロポネソス戦争の発火点の1つとなった．

ペリアンドロスのコリントス支配は44年間続いた．その死後その子プサメティコスが跡を継いだが，彼には独裁制を維持する力はなく，まもなく打倒された．コリントスが僭主制から財産別資格区分による寡頭制に変わったのは，伝説では前580年ころとされるが，実際にはそれより30年くらい後のこと，と見る人もある．

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．